

心肺蘇生法の手順及び手技 (乳児・一歳未満)



反応を確認する

声をかけながら反応があるかないかを確認めます。このとき、足の裏を刺激することも有効です。

 刺激位置

助けを呼ぶ

反応がなければ、大きな声で助けを求めます。協力者が来たら「あなたは119番へ通報してください」「あなたはAEDを持ってきてください」と具体的に依頼します。協力者が誰もいない場合、まず自分で119番通報とAEDを手配します。

呼吸の確認

傷病者が「普段通りの呼吸」をしているかどうか確認します。

- ①呼吸をみるために、胸部と腹部の動きの観察に集中します。
- ②普段通りの呼吸がない場合は、心停止と判断します。10秒以上かけないようにします。

胸骨圧迫

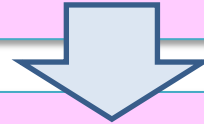
圧迫位置は、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とした胸の真ん中です。胸骨圧迫は指2本で行います。圧迫の強さ(深さ)は、胸の厚さの約1/3を目安として十分沈む程度に、強く、速く、絶え間なく圧迫をします。乳児だからといって、恐々と弱く圧迫しては効果が得られません。





人工呼吸

準備ができ次第、人工呼吸を開始します。基本的には、まず胸骨圧迫を開始した後、気道確保を実施して人工呼吸を2回行いますが、胸骨圧迫よりも早く人工呼吸を行えるのであれば、人工呼吸から心肺蘇生法を行ってもかまいません。乳児の大きさでは、口対口人工呼吸法を実施することが難しい場合があります。この場合は、傷病者の口と鼻を同時に自分の口で覆う口対口鼻人工呼吸を行います。



胸骨圧迫と人工呼吸の継続

胸骨圧迫を30回連続して行った後に、人工呼吸を2回行います。この胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ(30:2のサイクル)を、救急隊に引き継ぐまで絶え間なく続けます。

心肺蘇生法を続けているうちに傷病者が目を開けたり、普段通りの呼吸を確認できた場合は、心肺蘇生法を中止します。

AEDの使用

乳児にもAEDが使用できます。AEDに小児用電極パッド(小児用モード)が備わっている場合にはそれを用います(切り替えます)。もし小児用電極パッド(小児用モード)が備わっていない場合は、成人用パッドを使用します。電極パッドを貼る位置は、電極パッドに表示されている絵に従います。小児用電極パッドの中には、胸と背中に貼るタイプのものもあります。